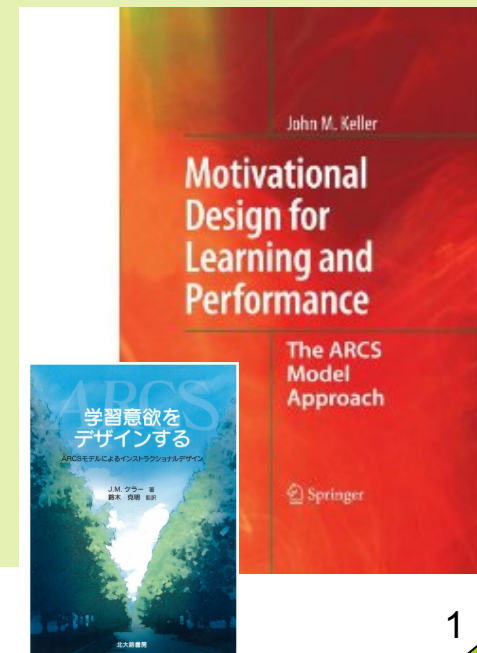


第57話 ARCS本の単著と翻訳本が出ました！ —提唱者John Keller教授を迎えての質問タイム—

- 誕生から25年、ジョン・ケラーの単著がようやく発刊されました。7月20日発刊の翻訳本(目次)ができました！
- 動機づけに関する心理学諸理論をまとめて4要素に分解
 - Attention「おもしろそうだ」
 - Relevance「やりがいがありそうだ」
 - Confidence「やればできそうだ」
 - Satisfaction「やってよかった」
- ARCSモデルからARCS-Vモデルへ
 - MotivationとVolition: ARCSモデルの進化形？
 - ARCS-Vを支えるMVPマクロモデル(上半分)
- ARCSモデルはARCS-Vモデルとして定着？
- 質問タイム:何でもどうぞ！！

下位分類もあります

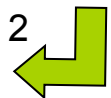




翻訳本(北大路書房、2010) 「学習意欲をデザインする」

- 第1章 学習意欲を研究するということ
- 第2章 学習意欲のデザインとは何か?
- 第3章 学習意欲をデザインするARCSモデル
- 第4章 注意を生み出し維持する作戦
- 第5章 関連性を確立し支援する作戦
- 第6章 自信を構築する作戦
- 第7章 満足感をもたらす作戦
- 第8章 学習意欲の問題を見つける
- 第9章 動機づけの目的と方策を練る
- 第10章 学習支援設計に組み入れる
- 第11章 学習意欲のデザイン支援ツール
- 第12章 学習意欲のデザインに関する研究と開発

©2010 鈴木克明



意志 (Volition) とは

- 「目標を達成するために努力し続けることに関連する行動と態度全般を示す概念」と定義されている。自己制御力と同意語であると捉えられている。
- 一方の意欲 (Motivation) は「人々が何を望み、何を選んで行い、そして何を行うことに全力を傾けるかを一般的に意味する」と定義されており、「我々がやっていることをなぜやっているのか」という人類の最大の関心事を説明しようと試みることとしている。
- 意欲が高い場合はその実行を妨害する状況への抵抗力が強い一方で、当初の意欲がそれほど高くない場合、妨害に打ち克つために意志の力が必要だとされる。Keller によれば、初期の動機づけが強力であれば意思を支援する方略は最小限でよいかもしれないが、実行時にはあらゆる障害や相反する目的が待ち受けているのでやり続けるための自律的方略が求められることになる (鈴木 2009)。

[辞書の定義](#)



Motivation と Volition

- **volition**【名】

- 意志(力・作用)、意欲、決意、決断(力)、意志選択行為、選択
- **volition level** 意欲水準
- **exercise volition** 意志を働かせる
- **own volition** 《one's ~》自分の自由意志
by one's own **volition** 自由意志で
- **of one's own volition** 自分の(自由)意志で、自発的に、自主的に、自ら進んで[選んで]

- **motivation**【名】

- 動機、動機付け、自発性、やる気、刺激、意欲
- **motivation behind decision** 決定の裏[背後]にある動機
- **motivation behind someone's behavior** (人)の行動の背後にある動機
- **motivation for learning** 学習意欲
- **motivation for nuclear proliferation** 核拡散の動機
- **motivation for someone's work** 仕事の原因動力

出典: 英辞郎on the Web

©2010 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室
ランチョンセミナー

 Kumamoto University

～学習動機を捉えるARCSモデル～

ARCSは便利ですよ

私がつくりました！

ARCSmodel
ARCSmodel

John M. Keller





ARCS4要因の下位分類

(Keller & Suzuki, 1988)

注意	A-1:知覚的喚起 (Perceptual Arousal) A-2:探求心の喚起 (Inquiry Arousal) A-3:変化性 (Variability)
関連性	R-1:親しみやすさ (Familiarity) R-2:目的指向性 (Goal Orientation) R-3:動機との一致 (Motive Matching)
自信	C-1:学習要求 (Learning Requirement) C-2:成功の機会 (Success Opportunities) C-3:コントロールの個人化 (Personal Control)
満足感	S-1:自然な結果 (Natural Consequences) S-2:肯定的な結果 (Positive Consequences) S-3:公平さ (Equity)



ARCSモデルの理論的基盤

注意

関連性

自信

満足感

欲求の階層構造
(マズロー)

達成動機
(アトキンソン)

強化価値
(ロッター)

好奇心喚起
(バーライン)

不安感(ミラー)

心理学理論等を実践者
向けにまとめた

期待×価値理論

内発的vs外発的動機づけ

統制の位置
(ロッター)

効力感
(バンデューラ)

自己決定感
(ドシャーム)

獲得された無力感
(セリグマン)

原因帰属(ワイナー)



ARCSモデルの構成要素

動機づけ
設計プロセス

システムの活用方法

ARCSmodel

学習意欲を
高める作戦
のヒント集

動機づけ方略

ARCSmodel

ARCSの4
分類と
3つずつの
下位分類

設計の枠組み

ARCSmodel

魅力を
高める
道具



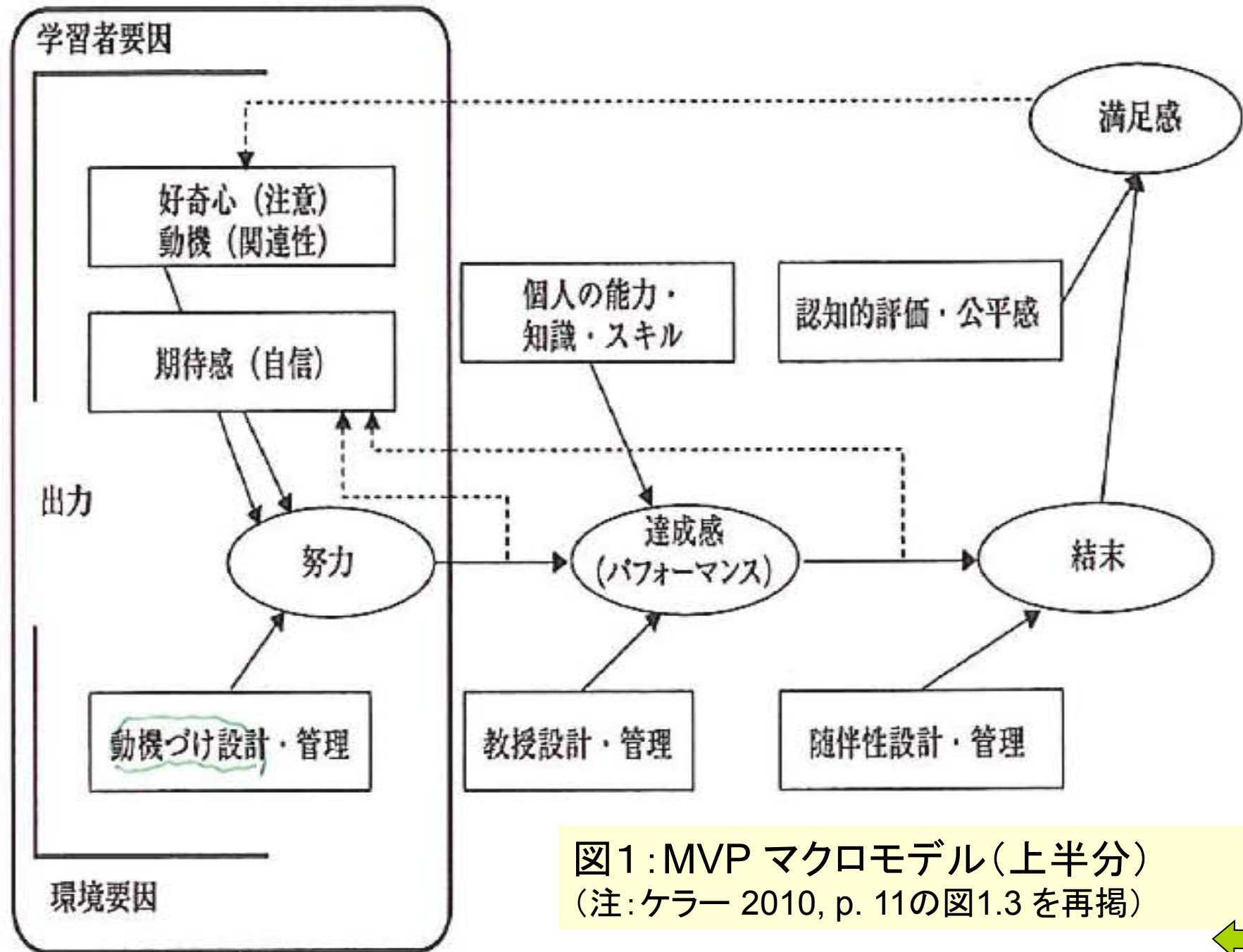


図1: MVP マクロモデル(上半分)
 (注:ケラー 2010, p. 11の図1.3 を再掲)



環境要因

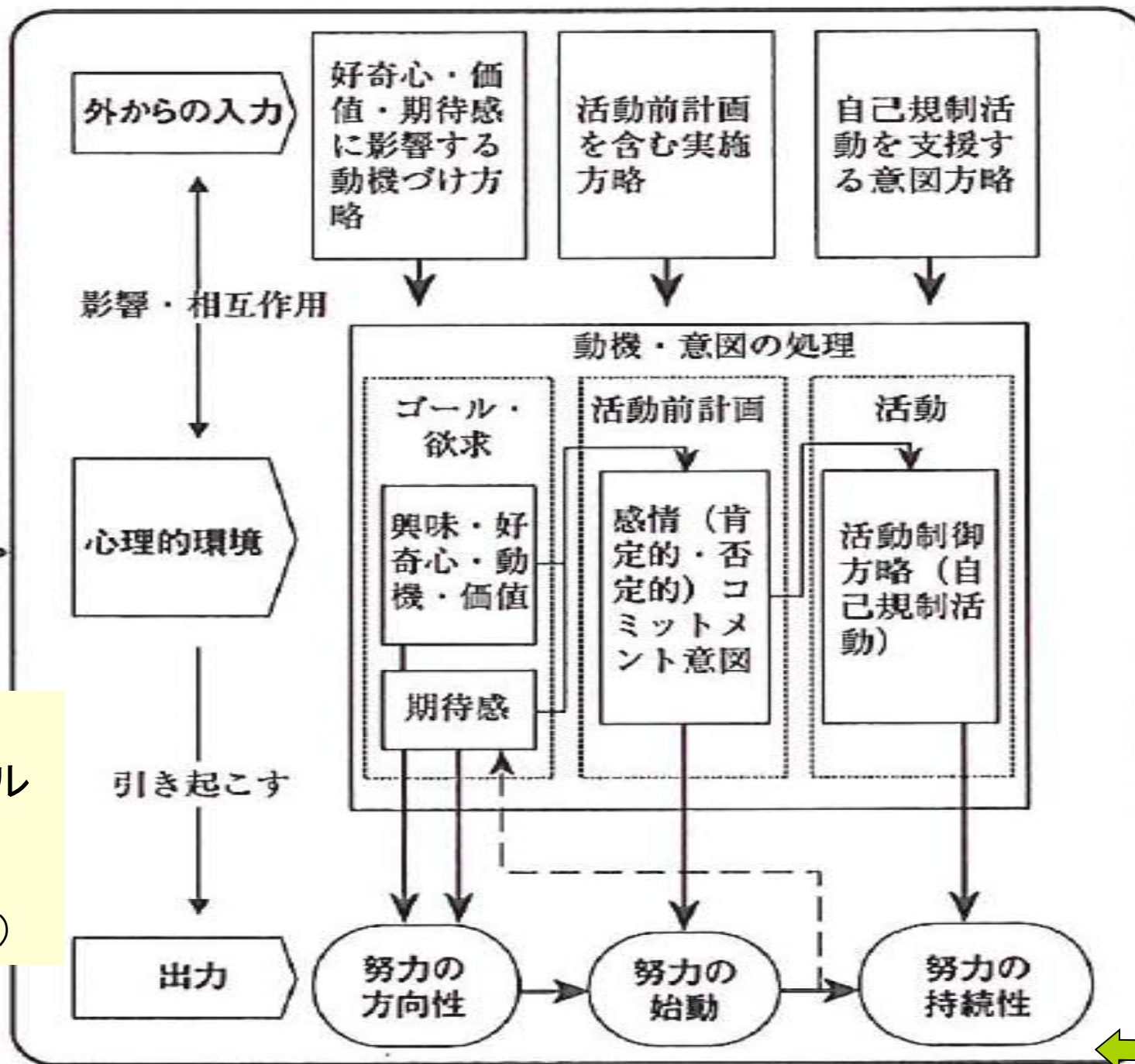


図1:
MVP マクロモデル
(下半分)
(注:ケラー 2010,
p. 11の図1.3を再掲)